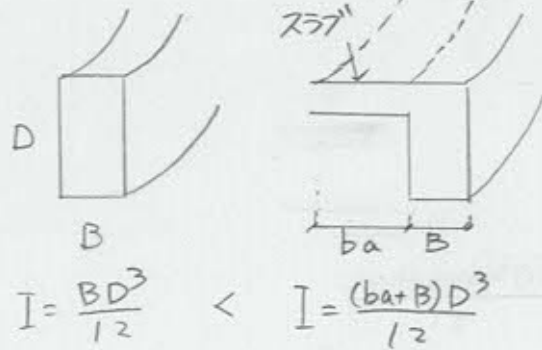


1. 梁部材の曲げ剛性

→スラブの効果と考慮  
→曲げ剛性は大きくなる  
(曲げりにくくなる)



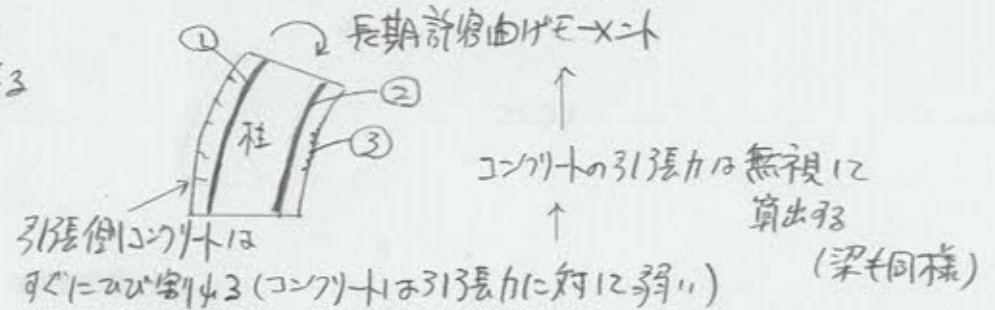
↓  
スラブの効果は無視すると  
梁の剛性を小さく評価することになり、  
梁に生じる応力が大きくなる可能性がある  
(危険になる可能性がある)

$$I = \frac{BD^3}{12} < I = \frac{(ba+B)D^3}{12}$$

2. 柱の長期許容曲げモーメントの算定

↓  
次の3つの場合の最小値とる

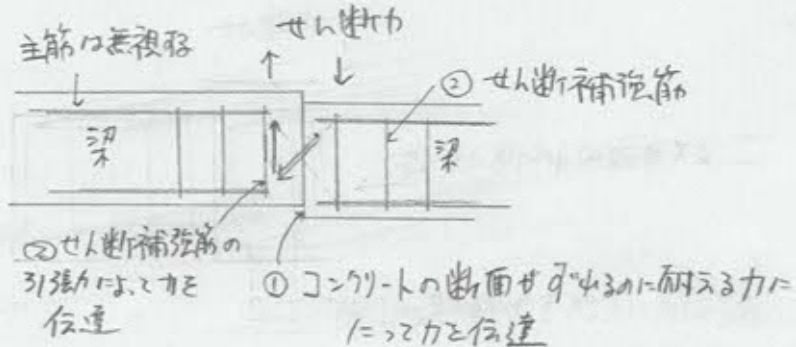
- ① 引張側鉄筋が許容引張応力度に達した時
- ② 圧縮側鉄筋が許容圧縮応力度に達した時
- ③ 圧縮縁が許容圧縮応力度に達した時



3. 梁の短期許容せん断力の算定

↓  
次の2つの合計とる

- ① コンクリートの短期許容せん断力
- ② せん断補強筋による短期許容せん断力



4. 柱の短期許容せん断力の算定

↓  
梁と同様に求めることができる  
軸圧縮力によりせん断強度が増大が見込まれるが、  
安全側にこれを考慮していい。

